

# 歴史と自然が共存するまち

皆さんは、大口町のどんところが好きですか？ 五条川の桜並木、のどかな田園風景などがありますね。他にもわがまちには語り継がれる歴史、文化があります。

## 大口町 郷土マップ

織田広近が小口城築城後に木ノ下城(犬山市)を築城。2つの城を往來したとされる街道です。

織田街道道標

善光寺塚古墳

高さ3.7mの円墳で頂上に数本の雑木と石碑があります。

善光寺塚古墳

薬師如来坐像

薬師寺

木造寄木造で室町時代の作と推定されています。天正17年(1589)8月21日、吉田弥助によって修理された銘が記され、明治になって金箔に塗り替えられました。

五条川

小口城址公園

長祿3年(1459)、織田広近によって築城。別名、箭筈城(やはすじょう)とも呼ばれています。10月に大口町伝統芸能発表会がおこなわれます。

小口神社

山柿

老樹ですが、樹勢は旺盛で毎年多くの実をつけ、重みで枝が垂れ下がり樹形が優美です。山柿は本州南半に自生しますが、平野部でこれほどの大樹になるのは珍しいそうです。

おちよぼ稲荷故里の宮

桜の植樹風景

初代町長の社本鋭郎さんが、生みの親といわれる五条川桜並木。五条川の桜は名所といわれるようになり「日本のさくらの名所百選」に選ばれています。

### 大口町の文化財

私たちの祖先が長い歴史の中で生み出し、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産が文化財です。現在大口町には国指定1件、県指定4件、町指定46件の文化財があります。

文化財は有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群と6種類に分けられ、これらの中で重要なものを国、都道府県、市町村が指定登録することにより保護します。国が指定した重要文化財のうち、世界文化の見地から価値が高く、類のない国民の宝であるものが国宝に指定されます。

平成27年7月8日、大口町と姉妹都市でもある、島根県松江市の松江城天守が国宝に指定されました。

### 堀尾跡公園と小口城址公園

松江城を築城し、「松江開府の祖」とされる大名・堀尾吉晴公生誕の地が大口町という縁で、松江城天守が国宝に指定された翌月の8月29日に、大口町と松江市は姉妹都市提携を結びました。堀尾吉晴公の生誕の地は大口町南部



堀尾跡公園 裁断橋



金助の母の銘文が刻まれている擬宝珠

町内五条川  
片道徒歩で  
約1時間30分

町内外周24Km



文化財めぐりは便利な  
大口町コミュニティバスを  
ご利用ください。バス停の  
位置は時刻表でご確認ください。

境内から白山ふれあいの森の中には、弥生時代から古墳時代までの墳墓群が残っています。



白山神社 (下小口)



仁所野遺跡

100年以上前から存在するエドヒガン。現在大口町では、この古来の桜を組織培養し、苗木を育てる計画が進んでいます。



エドヒガン桜

高さが2.5mの古墳。古くから頂上に桜の木があることから桜塚とよばれています。



桜塚古墳

中門は、小口城の城主であった織田広近によって建立され、室町時代の様相を残す貴重な文化財。山門は、犬山城の第一黒門を移築したものです。別名・山姥(やまんば)寺。地域に伝わる「山姥物語」ゆかりの寺です。



中門



徳林寺 山門



八劔社



八劔社拜殿



天神社

まめなし

絶滅危惧種の指定を受けている希少な植物。見ごろは4月で6月ごろに実をつけます。



県指定文化財

鑄鉄地藏菩薩立像

通称「汗かき地藏」。作者は不明ですが、室町時代に作られたといわれています。



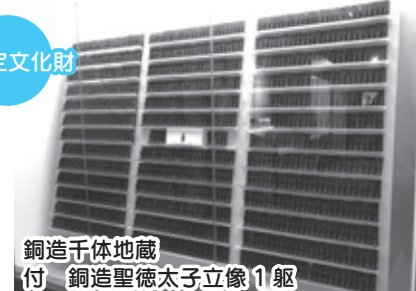
大口市街歴史民俗資料館



県指定文化財

陶製狛犬

県指定文化財



銅造千体地藏付 銅造聖徳太子立像1軀

の豊田地区。八劔社境内には堀尾氏邸宅跡(町指定文化財)が残っています。八劔社の裏(北側)を流れる五条川には復元された裁断橋がかかり、橋を渡ると堀尾跡公園があります。そこは吉晴公の長男といわれる金助とその母の「裁断橋物語」をテーマにした、子を想う母の心を後世に伝える歴史公園。擬宝珠に刻んだ息子への想いを託した文章は、日本女性三名文の一つとして知られています。

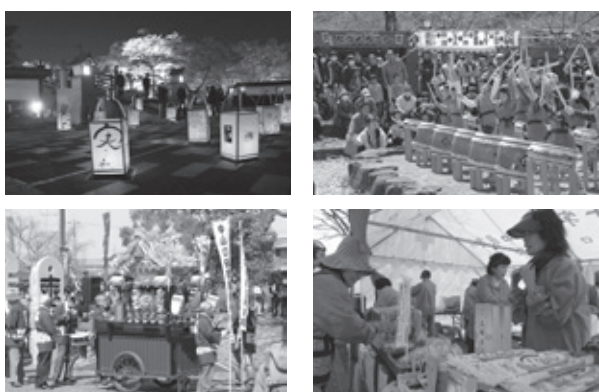
また、町北部の中小口地区には小口城址があります。小口城は、室町時代の長祿三年(1459)に織田遠江守広近が築きました。こちらも現在は小口城址公園として整備されており、周辺には文化財が残っています。小口城のちに、尾張統一を目指す織田信長に攻められ一旦廃城となりましたが、天正十二年(1584)の小牧・長久手の戦いに秀吉方の砦のひとつとして、改修され再利用されました。

織田遠江守広近は小口城を築城した10年後の文明元年(1469)に、木之下城(犬山市内)を築城します。小口城と木之下城を結ぶ道は織田街道(小口街道)と呼ばれ、現在も道標が残されています。

## 大口町の歴史を今に伝える おおぐち歴史ガイド

こうした歴史と自然が共存する町の魅力を多くの人に知ってもらおうと、平成28年に「おおぐち歴史ガイド」(現在会員12名)が発足。昨年の金助桜まつりでデビューし、堀尾跡公園を訪れた方に堀尾氏ゆかりの地の案内をしました。

「足を運んで歴史を知ること、点と点がつながり、それが線となり面に広がっていくと、もっと歴史が面白くなっていきますよ」とガイドの奥出光男さん。



▲昨年の金助桜まつり



▲ガイドをする大森さん

今年の金助桜まつり(4月1日)でも堀尾氏ゆかりの地のガイドを務めます。

午前10時から八剱社で祭礼がおこなわれ、堀尾跡公園では、野外ステージで、木遣りや獅子屋形のお囃子、南保育園の園児による和太鼓披露があります。さらに、まちづくり団体の出展や、おおぐち光燈路、また、児童公園では剣道大会や太極拳が催され、例年たくさんの方々を訪れ祭りを楽しみます。

ガイドの所要時間は30分から1時間(ご希望の方は現地でお気軽に声をかけてください)。ご家族やお友だちと一緒に花見を兼ね、見過ごしていた大口町の歴史や文化を発見してください。

## 取材にて

大口町を見渡すと、大切にしたい歴史や文化がたくさんあります。秋祭りなどに欠かさず作られ親戚をもてなした、酢さばの箱ずしなどの食文化、地域に残る昔話や、その土地の特徴や歴史を表す地名、伝統芸能など。

「最近では核家族化が進み、おじいちゃん、おばあちゃんから昔話を語り継ぐことが少なくなってきたことから、「私たちのまちには何もない」という、郷土を知らない人が増えている気がします。郷土愛を深めることが、やがて自尊心につながり、子どもたちが成長したとき、『歴史と自然のまち大口町』と胸を張って言えるのではないのでしょうか。ガイドを通して郷土の魅力を伝えるという

ことは大切な役目だと思います」と、おおぐち歴史ガイド会長の大森英男さんはおっしゃいます。

先人たちによって守り伝えられてきた数々の文化。それは地域住民の心一つにして「絆」を生む役割を担っています。人と人のつながりが希薄化している今、先人たちから受け継いだ文化を見つめ直し、次の世代にバトンを渡せるよう、これから守っていききたいですね。

## 歴史ガイド 募集中



▲おおぐち歴史ガイドの皆さん

おおぐち歴史ガイドの皆さんは、ガイドの範囲を広げるため毎月勉強会を開いています。現在新しくメンバーを募集しています。興味がある方はぜひ遊びにきてください。ガイドは八剱社や小口城址周辺など、大口町の歴史的なスポットを無料で案内してくれます。詳しくは、生涯学習課(☎95-3155)へお問い合わせください。



▲地域の方に食文化(箱ずし)を教わる大口中学校の生徒(昨年9月)